令和５年度　学校関係者評価書

南アルプス市立南湖小学校

学校関係者評価委員会

１　実施日　　令和６年１月１７日（水）　午後３時３０分より
（初めに甲西４校の全体会を行った後，各学校ごとに分かれて学校関係者評価委員会を行った。）

２　会場　　甲西中学校　図書室

３　評価者　　学校関係者評価委員
大森　修　　（元　田島区自治会長）
箭内　潤一　（地域住民代表）
小田切　雅裕（元　校長）
入倉　喜明　（南湖地区主任児童委員）
佐藤　陽子　（PTA 会長）　※今回は都合により，書面でご意見をいただきました。
学校職員
鶴田　誠司　（校長）
齊藤　千代美（教頭）

４　学校から提案された内容
教職員・保護者・児童のアンケートの昨年と今年の結果の比較，及び分析と考察（教頭）

５　協議の内容
※学校評価の結果と考察，改善策について説明後，特に課題と思われる点についてご意見やアドバイスをいただいた。

<u>①計画的な家庭学習のために</u>
（学校関係者評価委員より）
・家でいざ宿題をやろうとすると，わからず進まないことがあった。授業中に分からないことをどの子も気軽に先生に聞けるようにしてやることで，みんな家庭学習に取り組めるのではないか。
・共稼ぎ世帯が増えて家庭環境が変わってきている中，家で学習させるのは難しいが，各家庭で学習を見てやれるように環境づくりを進めることは必要である。また，学校で学習する内容も難しくなり，英語なども入ってきたので，親が子どもに教えられる内容にも限界がある。宿題の出し方にも工夫が必要ではないか。
・ＧＩＧＡスクール構想の流れを受け，ＩＣＴ等を活用して，家庭で個別の学習が進められるようにしていくとよいのではないか。今が逆にチャンスととらえ，クロムブック等を使って従来の先生対子どもではなく，子どもが自分で学習が進めていける方法を教えていってほしい。
（学校より）
・今後クロムブックを家庭学習にも有効に活用できるよう教員も考えていくとともに，これからの時代に対応できるよう，児童が個々に関心を持ったことも家庭学習で追及していくことも自主学習の中で意識して行っていきたい。

②児童のあいさつについて

（学校関係者評価委員より）

・南湖小はまだあいさつが積極的にできていないと感じる。家庭も含めてなぜあいさつができないのかみんなで理由を考えてみる必要がある。中学生はあいさつをよくする。甲西地区のあいさつ運動にも今年は中学生が参加していた。小中一貫なので，中学生があいさつの効用を小学生に話すなど，中学生の力を借りてもよいのではないか。

・地域の協議会では，「よくあいさつをしてくれる」という声もあるが，自分が行き会う小学生の様子からは，やはりあいさつが少ないと感じる。学校でも「地域の人に進んであいさつをしよう」という指導をしているようだが。

・子ども達に「知らない人にあいさつをしては，いけない」という意識があるのでは。あいさつをすると「あの人，どこの人？」という感じがある。また，恥ずかしくてあいさつができない子もいるようだ。

・交通安全協会や指導員，警察など，それとわかる制服の人にだけあいさつをするのではなく，地域の一般の人や近所の人にもあいさつができるようになってもらいたい。

・今，家庭の中でお互いにあいさつをし合う場面や機会は少ないので，家庭でのあいさつの指導が難しくなっている。意識して家族の中で「おはよう。」「いってきます。」「ただ今」など，あいさつをし合うようにしていかなければならない。また，子どもを地域に連れて行ったときに，地域の人にあいさつをするように「ちゃんとあいさつしなさい。」と親が促すことも大事である。

・令和６年度の重点事項として，家庭であいさつを意識してもらう取組をしたらどうか。

（学校より）

・先日の甲西地区のあいさつ運動でも中学生がよい見本を示していた。小中連携したあいさつ運動の取組の強化や，中学生からのアドバイス等，今後考えていきたい。また，教職員も「自分から児童にあいさつをする」だけでなく，あいさつができない子にはその場で具体的に指導していく等一歩踏み込んだ指導を全職員で行っていきたい。家庭に対しても PTA を通し，家庭でのあいさつの取組を進めていきたい。引き続き，地域の方にもあいさつするよう繰り返し指導していきたい。

③ネット利用・スマホ・ケータイについて

（学校関係者評価委員より）

・学年が上がるにつれ，パソコンやスマホに触れる機会が多くなり，トラブルにつながることも多くなっていると感じる。時間等のきまりを作っている家庭も多いと思うが，最初は守っていても段々とルーズになっているのも事実だ。お互いの信頼関係を保ちつつ，安全な環境をつくれたらと思う。

・学校で見ていて，実際にネット利用やスマホ・ケータイの問題点・トラブルはどのようなことがあるのか教えてほしい。

・子どものインターネットの問題は，課金等，親にかかわってくる部分も大きい。

・危険性の理解は，頭ではわかっているようでもまだ小学生には難しい。危険を回避するために，スマホや携帯に制限をかけられないか。

・ネットは生活に便利なものであり，これからの時代を生きていく子どもたちにとってなくいてはならないものである。情報を取捨選択できる能力，時間の使い方の能力を養っていかなければならない。学校や家庭でぜひやっていってほしい。

・ネット利用は時間を決めることが大事。家庭で時間の使い方等をしっかり話し合って決めていってほしい。

（学校より）

・インターネットやスマホ・ケータイの弊害として，ＳＮＳを介した友達とのトラブルや，知らない人とのやりとりで犯罪に巻き込まれるケース，個人情報の流出，課金，ネット依存による日常生活への影響，実生活でのコミュニケーション能力の低下などがあり、本校においても決して対岸の火事ではない。今後も保護者・子ども向けのスマホ・ケータイ安全教室を継続し，家庭でのルールづくりを推進していく。また，インターネットモラル教育などもさらに進めていきたい。

④小中一貫教育について

（学校関係者評価委員より）

・甲西中学校区が小中一貫校になったことは，保護者の認知度も低いが，地域ではさらに知られていない。保護者や地域へのＰＲをしっかりしていく必要がある。（今年度保護者に配布した甲西地区小中一貫校のパンフレットを回覧板で地域に回すとよいのでは。）

・小中一貫教育は，今までも中学生が出身小学校にあいさつ運動に来たり，子どもや学習の様子などの情報共有を行ってきたりした等の積み重ねがある。それに改めて「小中一貫校」という看板を付けることで，より意識して，義務教育９年間を通して一緒に子どもたちを育てていこうという取組である。さらに充実させていってほしい。

（学校より）

・今年度の成果や課題，アンケート結果等を生かし，改善しながら，来年度はさらに小中一貫教育の取組を充実させていきたい。また，小中一貫の取組の様子も学校ＨＰ等を通し，保護者や地域に知っていただけるようにしていきたい。

⑤その他の感想・要望等

・地域の回覧板も有効に活用し，学校からの連絡や学校を知っていただくことに生かしていくとよい。

・学校評議員の構成は，できたら各地区にまんべんなくいるようにするとよいのでは。

令和６年１月２９日

評価書作成責任者　　事務局　学校職員　　齊藤　千代美